

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

循環器病に係る急性期から回復期・慢性期へのシームレスな医療提供体制の構築のための研究

研究分担者 宇宿 功市郎 熊本大学病院 教授
研究分担者 中村 太志 熊本大学病院 准教授

研究要旨

地域に応じた医療体制方策の提言に向け、熊本県の地域医療連携ネットワーク事業であるくまもとメディカルネットワーク(以下、KMN)とその運営状況を報告し、KMN 利用施設間における施設連携と職種連携の実態調査を通じ、循環器病における急性期から回復期・慢性期にかけてのシームレスな医療提供体制の実現に有用であることを確認した。

A. 研究目的

くまもとメディカルネットワーク(以下、KMN)の現状を把握し、地域の特性に応じた診療提供体制と地域包括ケアの実態調査と課題の抽出を行う。

B. 研究方法

熊本県地域医療ネットワークの運営状況を、KMN のセンターサーバに蓄積された厚生労働省電子的診療情報交換推進事業 SS-MIX2 データから評価し、循環器病の急性期から慢性期の診療提供体制の課題を検討し提言する。

(倫理面への配慮)

研究機関長の倫理承認(倫理第 2199 号)を経て、人を対象とする生命科学医学研究に関する倫理指針を遵守して調査を実施しており問題はない。

C. 研究結果

KMN の仕組みを紹介し、参加者数及び利用施設数の推移を集計報告した。熊本県内の

2 次保健医療圏毎に、2021 年 3 月までの KMN 診療情報・介護情報ビューアの閲覧数、文書送受信数を評価し、施設間連携における地域差を年単位で可視化した。また病院や診療所、歯科、薬局、介護事業所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの 7 類型施設別に同様の抽出を行い、県内における急性期から慢性期にかけての施設連携と多職種連携の実態を評価報告した。介護情報の電子的共有によるメリットとデメリットを、職種毎(医師や外来看護師、訪問看護師、ケアマネージャー、介護福祉士)に聴取しまとめて報告した。心不全登録患者数も 2 次保健医療圏毎に可視化し報告した。

D. 考察

KMN 利用自体に地域差はあるが、参加者数の増加に伴い、利用施設間での文書送受信数や診療・介護情報の閲覧利用が 2020 年以降急激に増加していた。介護情報ビューアの利用増加は KMN を介した多職種連携の指標に活用でき、シームレスな医療提供体制の

実現に向けて各施設と KMN 間の情報連携推進のための運用の見直しと業務自動化支援が必要である。

E. 結論

KMN の利活用促進は施設を超えた職種間連携に有用であり、熊本県内の広域医療連携の充実、そして今後の循環器病におけるシームレスな医療提供体制の構築にも貢献が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表
 該当なし
2. 学会発表
 該当なし

G. 知的財産権の取得状況

1. 特許取得
 該当なし
2. 実用新案登録
 該当なし
3. その他
 該当なし